

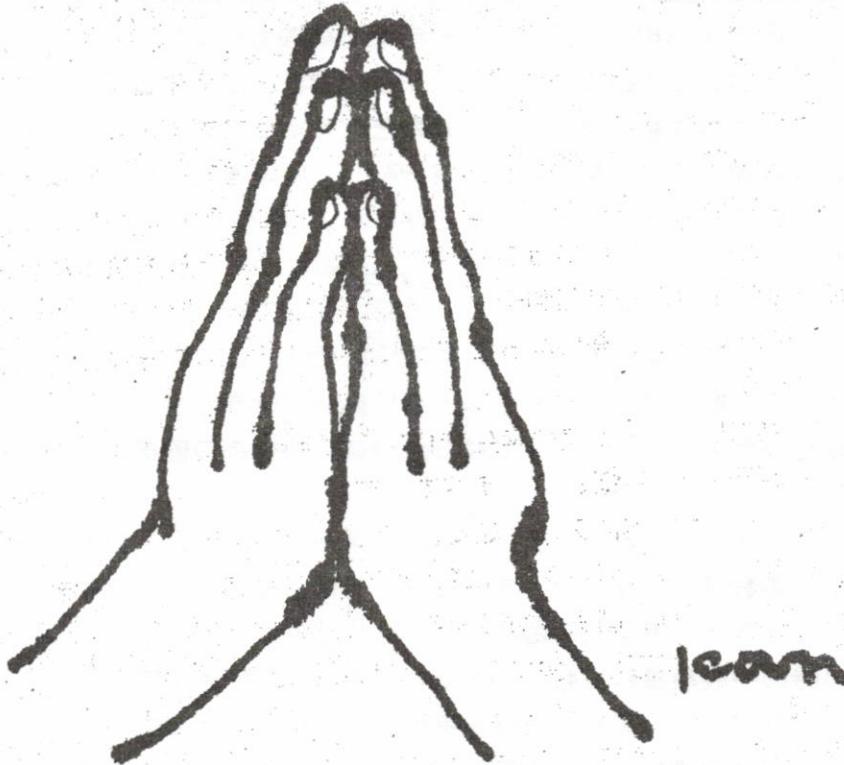


神奈川

発行 立命館大学
校友会神奈川県支部

〒221 横浜市神奈川区
鶴屋町 2-21-9
東亜興産株式会社
広報担当 (発行800部)

☎ (045) 312-1321



- ゴルフコンペ (第2回)
 - ・日時 59年10月9日(火) 9時～
 - ・会場 平塚富士見カントリークラブ
 - ・会費 ￥5,000円 (パーティ代・・・グリーンフィ・キャディフィ別)
 - ・事務局 東亜興産株式会社 浜田 ☎ 045-312-1321
 - ・幹事 茂山哲也 (31年理工卒) ☎ 045-712-0787
- 情報交換会 (仮称) 毎月第3水曜日・10月は17日(水)
横浜駅西口「パークサイド」にて開催。詳細は第4面
- 海つり大会 (第1回)
 - ・日時 59年10月21日(日)・・・集合7時20分・現地
 - ・船宿 万司郎丸・・・小田急線「片瀬江ノ島」下車徒歩2分
 - ☎ 0466-23-8309
 - ・アジ、サバ 小雨決行
 - ・幹事 長谷川 (45年文卒) ☎ 045-933-4662
- 忘年大会
 - ・日時 59年12月9日(日)
 - ・場所 未定
 - ・幹事 齋藤・上田
山口・松本

四十年の思い出

森田 康夫（昭和19年 理卒）

はじめに・・・校友会神奈川県支部から原稿の依頼をうけた日が三十九年目の終戦記念日の前日であり、何か立命館に関係のある記事を書こうとすると今から四十数年前の記憶をたどることになります。既に人生六十の峠まで到達し下りつつある熟年人生では若干記憶も薄らいでおり、ちぐはぐの思い出もありますが大切な「りつめい」神奈川のページをお借りします。

立命館との出会い・・・私は昭和十六年京都府立工業学校の染織科を卒業し一度は商工省（現在の通産省）京都輸出絹織物検査所に公務員として採用になりましたが、この頃より日本と欧米との雲行きがあやしくなり十六年の十二月には真珠湾攻撃 更に大東亜戦争となりました。従ってこの戦いを契機に貿易の稼ぎ頭であった輸出絹織物は一転して斜陽産業となり 尚且つ非軍需品として指定され世間よりは贅品と呼ばれ、且つ軍部より白い目で見られる様になりました。従って私の職業も就職して数ヶ月で挫折し職種の転向を考えねばならぬ破目になりました。これから将来生きて行くために戦時産業を含めて貢献出来る技術を身につけるには再教育を受けるより方法がないと判断し、僅か数ヶ月の受験勉強で昭和十七年三月立命館大学専門学部化学科を受験し何とか学籍を得たのが、今になって校友会神奈川県支部の皆様とおつきあいの出来る絆であります。

学生時代・・・私達の学生時代は大東亜戦争の真只中で軍国主義の監視下で鬼畜米英撃滅を目標とし、すべての若者はおそかれ早かれ死のベルトコンベヤーに乗せられる事を天命の如く教育されたのが当時の世相でした。それ故一年生の時の一般教養科目も、軍隊より派遣された配属将校の特訓下に軍事教練を必須と指定され、国史・道義学等が加えられた時代です。また冬期中、等持院のボロ校舎で暖房用石炭すら不足がちでした。それでも学生達は文句をいいながら耐えることをしられました。

実際の学生生活は僅か二年六ヶ月でしたが、授業内容は三年以上の詰め込み教育でした。昭和十八年十二月には例の学徒出陣令があり二十才以上の文科系学徒と理科系の平和産業系学科の専攻生は夫々陸海軍に入隊することになり広小路の校舎は全く淋しくなりました。

この様な世相でしたが戦争に勝つことを前提として、講義には大変熱が入りました。特に石野教授の高等物理学、沖中教授の物理化学と化学機械学、



戦前の広小路学舎正門付近

室伏教授の有機化学、児玉教授「通称ドテカン」の解析幾何学および微分学・積分学、京大教授石橋先生の分析化学等はダイナミックで目つ名講義で、期末試験の内容も百万遍の学生と同一問題であり 既にこの当時から問題漏滅のおかげを受けた記憶があります。

※ 森田先輩より大変長文の寄稿をいただきました。後編々筑前島へ出張すくとして6号に連載いたします。御期待下さい。(編集部)

お世話になった人
広報副委員長 上田 隆 (41年法卒)

私は、昭和41年4月から44年9月まで名古屋支店勤務でした。新入社員の営業マンとして飛び込みは、なつかしい思い出です。そんななかで なんとかしたとい考えた一方法が、先輩訪問でありました。

最初にお世話になった方は、蛸原義勝様(13専一経)でした。蛸原様のおかげで当時西松建設㈱の仕事をかなりやらせていただきました。名古屋の地下鉄は乗車するたびに思い出がよみがえります。東京本社勤務後はお尋ねする機会をなくしてしまつて 申し訳なく思っております。

東京本社勤務後は、野口勝見様(23専一文26大一経)をお尋ねしました。野口様は昭和53年3月当時、東レ㈱から東洋殖産㈱の社長に転出されておられました。愛媛県松山市にお尋ねして、東レの仕事でお世話になりました。

現在は、日本ピストンリング㈱田中三郎様(29大一理)、日本発条㈱山本英雄様(33大一理)、日産築炉工業㈱打越清敬様(43経)の各氏にお世話になっております。その他お尋ねしたり、お電話さしあげた諸先輩もたくさんいらっしゃいます。当社タイホー工業㈱にも 私を含め5名の立命人がおります。

私は昭和44年10月から東京本社勤務となり、49年10月からは建築関係の仕事から工業炉関係の仕事へ変わっております。今後も大いに先輩・後輩の皆様をお尋ねさせていただきたいと思っております。

神奈川県支部校友会に参加させていただき、新たな先輩・後輩の皆様と会う機会がうまれて、ありがたく思っております。支部校友会には、私はお手伝い出来る範囲で参加させていただくつもりでおります。故末川先生のお言葉であります「未来を信じ 未来に生きる」を大切にして、立命人の関係を密にしたいと願っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

○ 6月の例会報告

18 演題 日本の仏像について ・講師 淀井 敏夫

6月10日(日)日本芸術大学名誉教授 淀井敏夫氏による講演会を行った。題は「日本の仏像について」。参加者は四十四・五名で中には新聞を見て来られた方もチラホラと。神奈川支部もずいぶん開かれたものである。

この様な熱心な聴衆の中、一時間半にわたるお話の後、質問が約二十分。我々が普段 各地の寺で何気なく視ている仏像にも色々な意味がこめられていることが解り勉強になった。先生、本当に有りがとう御座居ました。

なお 支部をしまして今後もこの様な講演会を年に数回、催しますので是非御参加下さい。(長浜 54年経済卒)

○ 幹事住所・電話・勤務先等変更(神奈川県支部校友名簿訂正下さい。)

・茂山哲也(31年理工卒) 〒232 横浜市南区大岡 1-67-21

☎(045) 712-0787 (自宅)

・山下 保(50年文卒) 〒135 東京都江東区辰巳 1-10-104-402

都立忠生高校→都立広尾高校☎03-400-1761

「神水会」か「立神会」か、又は・・・？

石田 本清 (昭30年理工卒)

立命館大学校友会神奈川支部では、極く最近「情報交換会」(仮称)なるものを発足させ、第1回会合が去る7月18日(水)に開かれた。初回のことであり校友会々員全般に未だ知られていないこともあって、参加者は十数名ではあったが、和やかな歓談のうちに各人のこの会への意見、抱負等が出された。この中で特に注目すべきことは、列席者の多数から「この会を一旦発足させた以上は、この会を消滅させないよう継続させ、今後益々会を盛り上げてゆき校友である会員に役立つものにしてゆこう」と云った力強い意見が出されたことである。

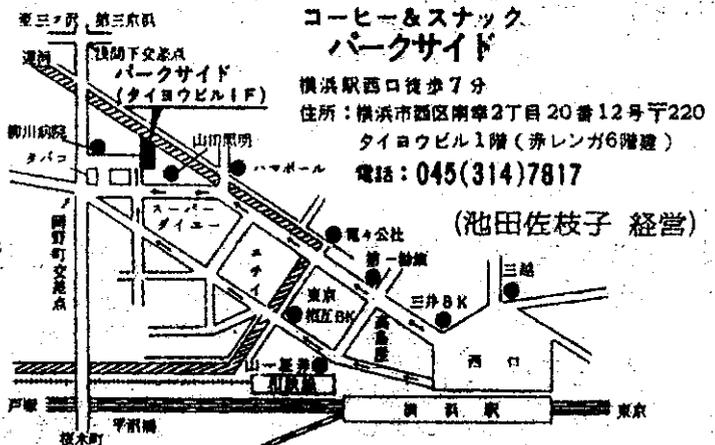
この会発足の切っ掛けとなったのは、本年6月10日(日)に開かれた支部会の席上で一列席者から「情報を交換するための会合を定期的に関いてはどうか」という提案がなされたことである。この提案を早速幹事一同が採択し、会合の日時・場所を検討した後下記のように定め実施の運びとなった。

日時 毎月第三水曜日 午後6:30~9:00
場所 コーヒー&スナック「パークサイド」
横浜市西区南幸 2丁目20番12号
☎ 045-314-7817

次にこの会の名称を何にするかが課題になり、その時提案されたものが上記の「神水会」及び「立神会」(立命、神奈川、水曜日の頭文字を組み合わせたもの)である。しかし当幹事会では、これの名称は広く校友会々員から募集しその中から採択しようということでの今のところ未定であり、暫定的に「情報交換会」と呼ぶことにしている。この会の今後の運営及び運用は、会員諸氏の御意見とかアイデアを取り入れて次第に発展させてゆくことになりませんが主旨としては「校友会々員相互の親睦を深め、そして諸々の情報を交換し得る場とする」ということになるでしょう。校友である皆さんの参加をお待ちしています。

※8月の会合は第三水曜日が15日でお盆のため第四水曜日に行なわれました。

※会の名称について早速広報部へ「立水会」「三水会」はどうかと意見が寄せられました。応募メ切は11月末とし12月頃決定したいと思っております。



- 会員一人ひとりの会費が今後の支部の充実した運営・発展に結びつくことと御認識のうえ皆様の御支援・御協力をお願いいたします。(会計担当 重谷)
- 勤務先・住所など変更の時は御連絡下さい。(名簿発刊委員長 登川)

編 集 後 記

皆様の積極的な寄稿をお待ちしております。 広報委員長 (武田)
広報副委員長 (上田・都築) 委員 (山下・川俣・長浜・長谷川)